

クラブ局にウビダ大使をお迎えして

JA3VWT 中野 幸紀

2014年2月1日(土)と2日(日)に大阪国際交流センターで恒例のワンワールドフェスティバルが開催された。第21回目を迎える同フェスティバルに、今年は1万7500人を数える来場者があったという(主催者調べ)。

この国際協力フェスティバルに、J13ZAGとご縁のある西アフリカの内陸国、ブルキナファソのウビダ大使ご夫妻が公式に訪問されるとの情報を日本ブルキナファソ友好協会の松山会長から事前に教えていただいていた著者(JA3VWT)は折からの大学入試日程をかいくり1日の午後に会場に駆けつけた。松山会長の案内で会場を視察しておられた大使に思い切って、J13ZAG局の視察をお願いしてみた。すると二つ返事でOKをくださった。すでに大使にご挨拶を済ませていた北井さんと一緒にエレベータで階上に上がりJ13ZAG局を見ていただいた。



短波帯の通信が大陸を超えて可能であること、電離層の反射による通信なので季節、時間帯などで通信がうまくできる時とそうでない時があることなどを、トランシーバから流れてくるQSOをバックに、大使に説明させていただいた。その時間は5分だったか10分だったか、あっという間だったように思う。何か質問をいただいたと思うのだがよく覚えていない。いずれにしても非常に光栄なことで、J13ZAGメンバーだったことを誇らしく思った。

2枚の写真はウビダ大使とのツーショットである。

最後に、大使の妹さんがブルキナファソでアマチュア無線の免許を持っていると思うので紹介するといわれてメールアドレスをいただいた。何か気が引けて、彼女にはまだ連絡していない。3月20日から東條先生、北井さんおよび著者の3名で4度目のブルキナファソ訪問の機会を準備しているのでそのときに連絡してみたいと思っている。



(J13ZAGにブルキナファソ全権大使ウビダ氏をお迎えしてのツーショット)